

競技会事業

JCBLは技術錬磨と品位向上、親睦と交流のため各種競技会を主催し、また開催を公認しています。

1. 公認クラブ

公認クラブとはデュプリケートゲームを主催し、入賞者に段位に相当するマスター位授与の基準になるマスターポイント(MP)をJCBLの公認を得て発行することができるクラブのことです。

公認クラブの種類には次のようなものがあります。

(1) 会社、学校等の団体クラブ

会社や学校のクラブ活動あるいは親睦団体のクラブで、参加資格を所属会員に限定しているクラブが多いようです。

(2) オープンクラブ

有志が公共施設、会社設備等の会場を借用して誰でも参加できるゲームを開催しているクラブです。

(3) ブリッジセンター

個人や有志が設備に必要な資金を出資してビルやマンションの一室を借用あるいは自宅を使用し、殆ど毎日ウィークリーゲームを開催しているクラブです。クラブの運営経費は参加者の会費で賄っており、経営母体は有志が集まって出資し運営しているものと個人経営のものがあります。

2. ゲームの種類

ゲームには3種類あります。1つは個人が主催するゲームでプライベートゲーム(クラス1のMP証を発行できます)です。もう1つは公認クラブが主催するウィークリーゲームやクラブ選手権試合(CCG)です。最後が公認クラブやJCBLが主催する選手権試合です。

(1) ゲームのクラス(ウィークリー・CCG)

ゲームには次のようなクラスがあります。

1) クラス1

8人以上が最低12ボード以上プレイす

るデュプリケートゲーム。

2) クラス2

プレイヤーの会員資格やマスターポイント100点を上限として参加資格を制限できる8人以上が最低16ボード以上プレイするデュプリケートゲーム。

3) クラス3

プレイヤーの会員資格やマスターポイントで参加資格を制限できる8人以上が最低18ボード以上プレイするデュプリケートゲーム。

4) クラス4

誰でも参加でき(オープン)、8人以上が最低20ボード以上プレイする毎週定期開催のデュプリケートゲーム。

5) クラス5

クラス2とクラス4のゲームを各2ゲームずつ開催するクラブがクラス4の1つをクラス5に指定できます。ノンプレイングディレクターが運営する事が条件で、ディレクターがプレイに参加した場合はクラス4のゲームとなります。

(2) 選手権試合

選手権試合には次のような格(レイティング)があります。

1) クラブ選手権試合(CCG)

2) ローカル

3) セクショナル

4) リジョナル

5) ナショナル

3. 主な全国大会及び地域大会

JCBLが主催あるいは公認している主な競技会には次のものがあります。

(1) 高松宮記念杯(ダブルノックアウトチーム)

JCBL創立の契機になった一番歴史の古い競技会です。

JCBL創立前から日米対抗親善試合を春秋2回、日本代表対在日外国人代表(主に駐留軍)の間で行っていました。

1950年、高松宮殿下からこの試合に優勝杯をご下賜頂きました。これが高松宮杯の誕生です。(2006年より高松宮記念杯)

日米対抗戦形式は1953年まで続きましたが、JCBL創立を機会にオープンチームとしました。1957年から年1回開催とし、1958年から現在のダブルノックアウト戦としました。

1966年フライト分けを行ない、JCBL最大かつ最も権威のある競技会です。

(2) 高松宮妃記念杯(ミクストペア)

1957年、高松宮妃殿下のご臨席を得て成増のグランドハイツで第1回高松宮妃杯を開催しました。開催当時は日本人女性プレイヤーが少なく外国人女性とのペアが優勝杯を独占していましたが、1961年に日本人ペアが初優勝しました。

1970年から関西、1983年から東海、1987年から北海道、1988年から東北、1994年から九州が地区予選を開催し東京の決勝に代表を派遣しています。

2006年より高松宮妃記念杯となりました。

(3) 全日本地域対抗選手権(文部科学大臣杯)

当時の副会長澤田清兵衛氏の提案で1962年9月に神戸オリエンタルホテルで第1回東西対抗戦を開催しました。

1967年にノンライフマスターとオープンの2つのフライト(1998年からMP 500点未満とオープン、2009年からMP 300点未満、MP 1000点未満とオープンになりました)を作り、1968年に東海地区が参加し、その後参加地区が増えたため地区対抗戦と改称しました。1981年女子チームの対抗戦も発足し、全国規模の大会として地域交流に大きな役割を果たし、1986年から文部大臣杯(2001年より文部科学大臣杯)として文部科学省のご後援により開催しています。

2012年よりフライトA優勝チームに文部科学大臣杯、準優勝チームに静岡県知事賞が授与されます。2025年よりフライトB・CはMP2500未満となりました。

(4) 外務大臣杯(オープンペア)

JCBL創立当時の総裁岡崎勝男氏の外務

大臣在任時にご寄贈頂いた優勝杯で、1954年に第1回を開催しています。

1975年に関西、1980年に東海が代表を派遣するようになり、1986年に外務省に改めて外務大臣杯の名義使用許可を頂き、現在は北海道、東北、つくば、九州でも予選が行われ、名実ともに全国大会に発展しました。

(5) 藤山杯(B-a-Mチーム)

藤山愛一郎氏にご寄贈頂き1959年に開始しています。創立以来B-a-Mチーム戦で開催しており、この試合を契機として1日のチーム戦が盛んになりました。2017年より2日制の競技会になりました。

(6) 朝日新聞社杯(スイスチーム)

1959年からジャパントイムズ杯の名称で始まりました。発足当時はこの大会の優勝者と前年度の高松宮杯優勝者の間でプレイオフを行い、極東ブリッジ選手権試合の日本代表を決定していました。

当初はダブルKO戦でしたが1961年からラウンドロビン戦にしました。その後参加チームが増加しフライト分けを行い、さらに1969年から現在のスイス戦となりました。

1975年からは冬季ナショナルとして開催され、高松宮杯と双璧の権威ある全日本選手権試合だけにかえて優勝杯がつけにくく、あえて優勝杯なしの全日本選手権試合として開催してきました。幸いにも1992年から朝日新聞社のご後援を頂けることとなり朝日新聞社杯として新たに出発しました。

(7) 任天堂杯(オープンペア)

1951年の京都大学ブリッジクラブ選手権試合が始まりで、関西支部発足に伴いリジョナルに、1977年から全日本選手権試合に格上げしました。任天堂のご後援により開催しています。

(8) ブルーリボン杯/レッドリボン杯

年間のJCBL競技会優勝者だけが参加資格のある大会で、以前は東京、大阪で同日開催していました。1988年から横浜(2010年まで)が、1996年から名古屋が加わり通信回戦を利用した同時進行の競技会になり

ました。2002年より2015年までは日産自動車株式会社のご後援を得て「NISSANブルーリボン杯」として開催しました。

また、2006年から500点未満のブルーリボン参加資格獲得者を対象にしたレッドリボン杯を開催しています。2008年から2018年まではエンゼルプレイングカード株式会社のご後援を得て、開催されました。2024年よりレッドリボン杯はMP1000とのストラティファイドペアとなり大船会場が加わりました。

(9) 全日本女子ペア選手権(ウィメンズペア)

1984年に玉川高島屋のご後援で全日本女子ペア選手権試合を創設し、玉川高島屋杯として発足しました。第1回から中国、台湾のプレイヤーや日本各地の女性プレイヤーを招待し、文字どおりの「全日本選手権試合」を目標に発展してきました。

1990年をもって玉川高島屋のご後援が終了、1992年から2008年までは読売新聞社のご後援により「読売新聞社杯」として開催されました。

(10) 玉川高島屋S・C杯(ウィメンズチーム)

玉川高島屋S・Cのご後援を得て1990年まで全日本女子ペア選手権試合にこの競技会名を使わせていただいておりますが、2007年から全日本ウィメンズチーム選手権試合として開催されることになりました。

(11) 山口知也杯(ヒューストントライアルペア)

1965年英文毎日新聞にブリッジ欄が開設されたのを機に始まった英文毎日杯が前身です。当初インディビデュアル戦で行われていましたが、1972年よりヒューストントライアルペア戦となりました。1996年から2015年まで、日本ロード・メンテナンス社のご後援を得てNRM杯として開催されました。2016年より山口知也杯として開催されています。

(12) 日本リーグ(ラウンドロビンチーム)

1970年に日本のナショナルチーム養成を目的にナショナルリーグが始まりました。これを発展させ1991年から日本リーグとなり、年2回開催されています。

日本リーグは1部8チームのダブルラウンドロビン、2部12チームのシングルラウンドロビンの2部編成で、1部の下位と2部の上位が入れ替わる入替制をとっています。日本リーグに連動して横浜、四谷、渋谷のクラブリーグ1部優勝チームが日本リーグ2部に昇格できるようになっています。

チームの同じメンバーが4人以上いないと次回の継続チームとして認めないなどの、チームの継続性を重視した形式の試合となっています。

(13) IMPリーグ

気楽にブリッジができるという気運を作ると共に、ブリッジの真髄であるチームゲームの普及を目的に1962年にトム・ブッチャー氏の提案で始まり、その後のチーム戦隆盛の原動力になっています。

New Team of Four League というのが開始当初の名称でしたが、1963年から岩部哲朗氏の命名でIMPリーグと改称しました。

1991年に主催がJCBLからクラブになりました。

(14) その他の主な競技会

- 1) 北海道リジョナル(北海道地区)
- 2) 青葉リジョナル(東北地区)
- 3) 河北杯(東北地区)
- 4) 柳谷杯(関東地区)
- 5) サントリー杯(関東・東海・関西地区)
- 6) 東京インビテーショナル(関東地区)
- 7) 井上杯/井上歌子杯(関東地区)
- 8) モンタルト杯(関東地区)
- 9) 夏季ウィメンズチーム(関東地区)
- 10) 横浜マリニリジョナル(関東地区)
- 11) 佐分利杯(関東地区)
- 12) 萩原杯(関東地区)
- 13) 神奈川県知事杯(関東地区)
- 14) 東京都知事杯(関東地区)
- 15) 服部杯(関東地区)
- 16) 新年リジョナル(関東地区)
- 17) 冬季ウィメンズチーム(関東地区)
- 18) 千葉県知事杯(関東地区)
- 19) 茨城県知事杯(関東地区)
- 20) 春季リジョナル(関東地区)

- 21) 渡辺杯（関東地区）
- 22) 浜松リジョナル（東海地区）
- 23) 志村杯（東海地区）
- 24) 大桑杯（東海地区）
- 25) 静岡県知事杯（東海地区）
- 26) 石坂杯（東海地区）
- 27) 中日杯（東海地区）
- 28) 澤田杯（関西地区）
- 29) 大阪大学橋本杯（関西地区）
- 30) 大阪府知事杯（関西地区）
- 31) 兵庫県知事杯（関西地区）
- 32) 高津健一杯（関西地区）
- 33) 伊賀杯（関西地区）
- 34) 木村六郎杯（関西地区）
- 35) 広島リジョナル（中国地区）
- 36) 香川県知事杯（四国地区）
- 37) テレビ西日本杯（九州地区）
- 38) 福岡市長杯（九州地区）
- 39) 九州リジョナル（九州地区）
- 40) 西日本新聞社杯（九州地区）

(15) 横浜ブリッジフェスティバル

1995年から2017年までNECのご後援を得て、海外チームを招待した日本初の賞金大会、NEC杯を中心に「NECブリッジフェスティバル」として開催されました（2016年のNEC杯は非開催）。2018年は横浜ブリッジフェスティバルとして開催しました。隔年開催を予定しましたが2020年以降COVID-19の影響で開催できず、無期限の中止となりました。

4. 遠征補助

地方からJCBL主催競技会に代表を招待するときは、次の条件で遠征補助を行います。

(1) 競技会費

競技会費は推薦、選抜を問わずお支払いいただきます。

(2) 交通費補助

- 1) ペア戦予選を本戦と同じ参加資格レイティングで開催した場合。

予選参加者8ペアにつき1ペア全額、4ペア増す毎に1ペア半額を追加（半額2ペアで全額1ペア分とする）。

※8ペアに満たないときは予選不成立になります。ただしセクショナル以下で選抜試合を開催した場合は、1ペア半額。

- 2) チーム戦代表選抜試合を2セッション以上のセクショナルで開催した場合。

予選参加者6チームにつき1チーム全額、4チーム増す毎に1チーム半額を追加（半額2チームで全額1チーム分とする）。6チームに満たなかったときは、1チーム半額。

3) 推薦

上記予選・選抜試合を実施しなかった地域で、地方会友制度の適用を受ける道県に所在する公認クラブは、各道県につき1ペアまたは1チームまで推薦できます（半額補助）。

(3) 宿泊費補助

上記交通費補助対象者が本戦に参加する際、前泊が必要であれば5,000円を上限として宿泊費を補助します。

(4) 対象競技会（補助に若干の差があります）

- 1) 柳谷杯
- 2) 玉川高島屋S・C杯
- 3) 藤山杯
- 4) 外務大臣杯
- 5) 高松宮記念杯
- 6) 全日本女子ペア
- 7) 高松宮妃記念杯
- 8) 朝日新聞社杯
- 9) 全日本地域対抗選手権 *

* 別途規定により交通費を補助します。

5. 地方大会助成制度

地方クラブのリジョナル開催に際し、連盟からのディレクター派遣には以下の助成があります。

- 1) ディレクター報酬の内、1日15,000円（ナショナルディレクター規定報酬1日30,000円）を超える金額を補助
- 2) ディレクターの交通・宿泊費の内、20,000円を超える金額を補助

6. ユース助成制度

ユースプレイヤだけのチーム、ペアには下記の競技会費*について優遇制度があります。ただしジュニアプレイヤは個人単位で適用します。

ユース：当年度4月1日時点で18歳以上26歳未満の会友

ジュニア：当年度4月1日時点で18歳未満の会友

(*注：実際に支払う額。優待券利用分は含みません。)

- 1) 日本リーグ
競技会費の全額助成。
- 2) 連盟主催のナショナル競技会
ただし全日本地域対抗選手権の全国大会は除く。
A. 競技会費の半額助成。
B. 最上位フライト3位以上に入賞したときは競技会費の全額助成。
- 3) 連盟主催のリジョナル競技会
前項A.と同じ。
- 4) セクショナル競技会
1人1セッションにつき875円を上限として競技会費の半額を助成。ただしIMPリーグ、クラブリーグは除く。

※遅刻・不戦敗があった場合は助成を取り消します。

※イーブンチャンスなどの競技会はペア単位で適用します。

※主催者より金銭またはそれに類する物品の供与がある場合は適用しません。

2) セクショナルディレクター

クラブディレクターの資格を持ち所定の実習／セクショナルディレクターからの推薦を経て、競技委員会の審査に合格すれば取得できます。

3) ナショナルディレクター

セクショナルディレクターの資格を持ち、ナショナルディレクターからの推薦を経て、競技委員会の審査に合格した人に与えられます。

(3) 競技会集計ソフト (JTOS)

競技会集計ソフト (JTOS) を開発し連盟会員・会友でご希望の方には無償で差し上げています。連盟事務局までお申し込みください。

(4) 競技会の質的向上のための啓発運動

マナーや規則の啓発運動を行っています。

(5) マスターポイントの発行、記録 (P.144 をご覧下さい)

(6) ハンド組み込み

ディールマシンをお持ちでないクラブに対してハンドの組み込み、ハンドレコードの作成を行っています。(有料)

(7) ブリッジメイト

ブリッジメイトの貸出。(有料)

(8) ガイドシート

テーブルガイドシートはA4サイズの原版のコピーを実費でおわけしています。またJCBLホームページからガイドシートのファイルをダウンロードできます。

7. その他の競技会事業

(1) ディレクター講習会の開催

ディレクターの育成のための講習会を年1回開催しています。それ以外で講習会の開催を希望する場合は連盟事務局までお問い合わせ下さい。

(2) ディレクター資格の認定

1) クラブディレクター

競技委員会が主催するクラブディレクター申請レポートを提出し合格すれば取得できます。お問い合わせは事務局へ。